

學習指導案（略案）

算数科学習指導案（略案）

平成 25 年 2 月 1 日 金曜日 2 校時
 小 学 部 1, 2 年 グループ
 男子 3 人 女子 3 人 計 6 人
 場 所 小 学 部 1 組 教 室
 指導者 四ツ永信也 (CT) 篠原麻葉 (ST1) 上屋文恵 (ST2)

1 題材 「すうじあそびⅠ」

2 本時の学習 (10/14)

(1) 全体目標

具体物の集まりを順序良く数えたり、数詞や数字に応じた具体物を並べたりする活動を通して、5までの数を数詞や数字で表すことができる。

(2) 個別の指導計画と個人目標

児童	個別の指導計画の目標	個人目標
A (1年, 男)	10までの具体物をまとまりで数えたり数字で表したりすることができる。	具体物を数詞と対応して数えたり、同数の半具体物を並べたりして、5までの具体物の個数を数字カードや数字を書いて表すことができる。
B (1年, 女)	10までの具体物を触れたり指さしたりして数えるとともに、3までの具体物の集まりを数詞や数字で表すことができる。	5までの具体物を数詞と対応して数えたり、数字と同数の具体物を並べたりして、3までの具体物の集まりと数字カードとを対応することができる。
C (1年, 女)	5までの具体物の集まりにおいて、触れたり指さしたりして数えるとともに、数詞や数字と対応することができる。	具体物を数詞と対応しながら指さしたり、数字と同数の半具体物を並べたりして、5までの具体物の集まりと数字カードとを対応することができる。
D (2年, 男)	5までの具体物の集まりにおいて、指さして数えたり、数字と対応したりすることができる。	具体物を数詞と対応しながら指さしたり、数字と同数の半具体物を並べたりして、5までの具体物の集まりを数字カードで表すことができる。
E (2年, 男)	10までの具体物の集まりにおいて、一つずつ数えたり、数詞や数字と対応したりすることができる。	具体物を数詞と対応して数えたり、数字と同数の半具体物を並べたりして、5までの具体物の集まりを数字カードで表すことができる。
F (2年, 女)	5までの具体物を指さしながら順序良く数えたり、3までの具体物の集まりを数詞や数字と対応したりすることができる。	具体物を数詞と対応して一方向に数えたり、数字と同数の具体物を並べたりして、3までの具体物の集まりと数字カードとを対応することができる。

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要

本時は、具体物の集まりを数詞と1対1対応して数えたり、数詞や数字に応じて並べたりすることで、5までの数を習得する学習活動である。導入では、歌遊びを通して、興味・関心を高め、数が増えていく様子を視・聴覚的に感じたり、数詞や数字を用いたりすることを意識できるようにする。展開前半では、相互の学び合いを促すために集団による学習活動を、後半では、個々の実態に応じた課題を設定できるように個別の学習活動を設定する。終末では、相互に取り組んだことを発表し合い、学習したことの達成感を味わうことができるようにする。

教材・教具とのかかわりについて

児童が主体的に注目を向けたり、触れたりできるように、使用する具体物は大きさや色、厚さなどに配慮する。具体物を数える際は音声ペンを活用し、音声言語の代替手段としたり、具体物を半具体物（絵カード、タイル）に置き換えることで数の抽象化を図ったりする。

友達・教師とのかかわりについて

導入では、数える活動において、友達のモデルとなって発表できる機会を設定する。展開において、友達と協力して数字と同数の具体物を集めたり、友達と一緒にその集まりを数えたりすることで、友達とかかわり合いながら学習を進めることができるようにする。終末では、できたことなどを全体の前で発表することで、教師や友達からの称賛を受けることができるようにする。

自分とのかかわりについて

児童の学びに対して即時的に称賛し、できた自分に気付きながら学習に取り組むことができるようにする。めあて提示の際は、学習活動に対する具体的な見通しや期待感をもつことができるように、絵カードや活動に関する模範を併せて提示する。展開では、自分でできたことに気付くことができるように、必要に応じてはめ板を用いた教材や光が出る教材を準備する。終末では、児童が主体的に発表できるように、実際に使った教材を用いた発表場面を設定する。

授業環境の工夫

導入、終末では、黒板前に集合し、CTや発表者、ホワイトボードに着目できるようにする。個別学習では、課題に向かうことができるようにグループ間の距離を配慮し、必要に応じて仕切りを設けたり、グループ内の友達の取組を手掛かりにできるように机の向きを工夫したりする。

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (10分)	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 歌遊びをする。 (1) 「いっぼんでもにんじん」 (2) 「すうじのうた」</p> <p>3 本時の学習についての見通しをもつ。 数えたり並べたりしよう。</p> <p>4 めあてを知る。 みかんの集まりを数で表そう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習の始まりが意識できるように、当番と一緒にサインを交えて挨拶を行う。 児童がこれまでの生活で見聞きしている歌遊びを取り扱うことで、学習に対する興味・関心を引き出すことができるようにする。また、歌遊びを通して、具体物の集まりや、数詞と1対1対応しながら数えること、数字とその数量に対する注目や意識を高めることができるようにする。 「いっぼんでもにんじん」の歌遊びを通して、数詞や数字に応じた具体物の数を数えたり、並べたりする活動の模範をST2が提示したり、実際に児童が行ったりすることで本時の学習内容に対する具体的な見通しをもつことができるようにする。 みかんの実物(模型)を籠に入れて数えたり、数字カードと同数のみかんの実物(模型)を並べたりすることで、学習課題を把握できるようにする。(ST1) 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード 歌遊び絵カード CD CDデッキ 数字カード 籠 みかん(実物, 模型) めあて用絵カード
展開 (25分)	<p>5 みかん狩りゲームをする。 (1) みかんとみかんの木から取る。 (2) みかんと1対1対応した容器に移す。 (3) 取ったみかんの数を数詞と対応しながら数える。</p> <p>6 数字カードと具体物や半具体物との対応を行う。 (個別課題) ・数字カード(1~3)と具体物との対応 B, F ・数字カード(1~5)と具体物や半具体物との対応 A, C, D, E</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容に対する具体的なイメージをもつことができるようにST1とST2が模範を提示し、CTが児童に対して説明を行う。 友達相互の関わり合いを促すために、ペアでの活動を設定する(AとB, CとF, DとE)。活動するペアにST1が、待っている児童にST2が支援し、CTは全体を把握しながら即時的に取組に対する称賛を行う。 取ってきたみかんと籠から一列に並んだ容器に移す活動を通して、みかんの数と数詞や身体動作とを1対1対応できるようにする。 音声言語や発語が少ない児童(C, D)に対しては、音声ペンを活用し、具体物と数詞とを対応できるようにする。 児童の課題に応じて二つのグループに分かれて学習を行うようにする。B, Fに対しては、3までの数字と対応する活動を行い、自分でできたことに気付くことができるように、はめ板や光の出る教材・教具を用いる。A, C, D, Eに対しては、対応する半具体物(絵カード)をタイルに置き換えていく活動を通して、数をより抽象的に扱うことができるようにする。 B, FについてはST1が、A, C, D, EについてはCT, ST2が指導及び支援を行う。 並べ終わった後は数詞と対応しながら数えることで、並べた数の確かめを行うことができるようにする。また、数字カードに応じて同数の具体物や半具体物を正しく並べることができたときは、「同じにできたね。」と、具体的な言葉掛けや花丸カードによって称賛し、「同じ」という用語によって数字と具体物の並び(数量)とを対応付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童写真カード みかんの木 みかん(実物, 模型) 籠 容器 トーカーペン 数字カード みかん模型 はめ板 はめ板盤 みかんの木イラスト みかんイラスト タイル タイル並べ容器 ホワイトボード 数字カード 花丸カード
終末 (10分)	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展開で使用した教材・教具やみかんとイラストした板版を用いて、実際に操作しながら本時での取組を発表できるようにする。 学習の終わりが意識できるように、当番と一緒にサインを交えて挨拶を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> みかん板版, 模型 花丸カード

(5) 評価

具体物の集まりを順序良く数えたり、数詞や数字に応じた具体物を並べたりする活動を通して、5までの数を数詞や数字で表すことができたか。